「女性教育シソーラスに関する調査研究*」概要

（1）趣旨

女性教育に関するナショナルセンターとして、男女共同参画社会の実現に向け、全国の女性関連施設における情報機能の充実に資するよう、女性教育関連語の新しい概念構造を体系化し、それに基づいてシソーラスを開発するための調査研究を行う。

（2）研究目的

1990 年に刊行した『婦人教育シソーラス 第 2 版』は、刊行以来、全国の研究者及び学習者が有益な情報を得るための検索語ツールとして、広く全国の女性関連施設において利用されてきた。しかしその後、第 4 回世界女性会議、国連特別総会「女性 2000 年会議」等の国際的動向並びに「男女共同参画社会基本法の制定」等の国内的動向と相俟って、女性学・ジェンダー関連の研究・教育の進展、地域における男女共同参画をめぐる取組の多様化等による情報量の増大、関連分野の多様化、新しい用語の出現等が進行したため、それに対応する新しいシソーラスが求められるようになった。

そこで、当会館及び全国の女性センター等女性関連施設の情報資源を有効に活用できるよう、女性教育関連用語における新しい概念構造を体系化し、インターネット上で提供する情報検索システムにおける「検索用語集（シソーラス）」の新しいあり方とその可能性を探るために調査研究を実施した。

（3）期間

平成 12 年度～平成 13 年度（２年計画）

（4）実施方法

①調査研究会の設置

調査研究会を設置し、年次計画に沿って調査研究を進めた。（２年計画）

・平成 12 年度：シソーラスの枠組みを検討。

・平成 13 年度：シソーラスの内容を検討し『女性情報シソーラス』として取りまとめ。

②調査研究会委員

主査　田中　和子　国学院大学教授・国立女性教育会館客員研究員

委員　青木　玲子　越谷市男女共同参画支援センター所長

尼川　洋子　(財)大阪府男女協働社会づくり財団･大阪府立女性総合センター企画推進グループディレクター

池田　淑子　東京大学大学院法学政治学研究科･法学部図書閲覧掛長

加藤　直樹　岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター助教授

神尾真知子　尚美学園大学総合政策学部総合政策学科教授（平成 13 年度）

亀田　温子　十文字学園女子大学社会情報学部教授

橋本ヒロ子　十文字学園女子大学社会情報学部教授・国立女性教育会館監事

船橋　邦子　大阪女子大学教授（平成 12 年度、平成 13 年度は外部専門家）

藤原　千沙　岩手大学人文社会科学部講師

細谷　　実　関東学院大学経済学部助教授

伊藤眞知子　国立女性教育会館事業課研究員（平成 12 年度）

高橋　由紀　国立女性教育会館事業課研究員（平成 13 年度）

外部専門家　足立真理子　東京大学大学院
岡村　清子　東京女子大学文理学部助教授
堀内かおる　横浜国立大学教育人間科学部助教授
松原　洋子　三菱生命科学研究所特別研究員
村松　泰子　東京学芸大学教育学部教授、国立女性教育会館客員研究員
アドバイザー　安達　一寿　十文字学園女子大学社会情報学部助教授・
国立女性教育会館客員研究員
＊主査、会館研究員以外は五十音順・敬称略
＊所属・職名は依頼時のもの

③事務局　独立行政法人国立女性教育会館情報交流課

（５）経過

・平成 12 年 4 月
第 2 版の問題点の洗い出し（会館内）
関連機関へのヒアリング（国立オリンピック記念青少年総合センター、女性関連施設）
既に出版されている内外の関連シソーラスの比較検討

・平成 12 年 11 月　平成 12 年度第 1 回委員会（調査研究の進め方について）

・平成 13 年 2 月　平成 12 年度第 2 回委員会（カテゴリーの検討）

・平成 13 年 3 月　平成 12 年度第 3 回委員会（１４のカテゴリー（仮）の決定）
用語のカテゴリー分け
シソーラス編集システムの開発

・平成 13 年 7 月　平成 13 年度第 1 回委員会（用語の検討）
用語の階層化開始

・平成 13 年 10 月　平成 13 年度第 2 回委員会（用語・階層化の検討）
WinetCASS 各データベースへの組み込み検討開始

・平成 13 年 12 月　平成 13 年度第 3 回委員会（用語・階層化の検討）

・平成 14 年 2 月　平成 13 年度第 4 回委員会
（用語の最終検討、名称、公開、維持管理の検討）

＊ この調査研究は平成 12～13 年度という会館の名称変更（平成 13 年 1 月に国立婦人教育会館から国立女性教育会館へ変更）の時期に行われたため、平成 12 年度は「女性（婦人）教育シソーラスに関する調査研究」、平成 13 年度は「女性教育シソーラス（仮称）に関する調査研究」として行った。平成 13 年度、独立行政法人化に当たって定められた中期計画では「女性教育シソーラスに関する調査研究」となっている。開発されたシソーラスの名称は『女性情報シソーラス』である。